

「私達の未来」を創る

新潟市立横越中学校 3年 泉 あすか

私はピアノを持っていない。それでも、ピアノを続け、この夏、中学最後のピアノの発表会で好きなアーティストの好きな曲を弾くことができた。私の十一年間のピアノを支えてくれたのは、公共施設のピアノ達だ。

私の通っていた幼稚園では、放課後、園舎で色々な習い事のレッスンが行われていた。そこで私はピアノを習い始めた。その後、造形教室など次々に習い事を増やしていった。

ピアノを習い始めて数ヶ月が経った頃、ピアノ購入の話が出たが、様々な習い事をする中で、いつまで続くか分からないし、どの習い事も辞めたくないのであれば、経済的にも今すぐピアノという大きな買い物はしないでおこうというのが母の考えだった。

初めのうちは八十八鍵盤キーボードで練習していたが、上の課題曲に取り組むようになると、タッチの重さやペダルなど、本物のピアノが必要となった。そんな時たまたま、母が「市報にいがた」で「だれでもピアノが弾ける日」という記事を見つけた。市民プラザの大ホールの使用がない日にステージにあるグランドピアノを弾けるというものだった。家からは少し遠く、使用料の他に駐車場の代金もかかったが、母は頻繁に申し込んでくれた。そうした練習を何年か続ける中で、もっと近くで沢山ピアノが弾ける環境はないかと母が色々調べてくれていた。そこで見つけたのが、家からも近く、無料の広い駐車場もある、江南区文化会館の音楽練習室だった。

何かを始めたい、続けたいと思っても、必ずしも恵まれた環境が全て整うわけではない。だが、ピアノを弾きたい、続けたい、そう願えば、こうして叶えることができる。読みたい本があったり調べたいことがあっても、量が多かったり高価だったり、自分で本を購入できない場合にも、図書館がある。みんなが払う税金が巡り巡って色々な形でまた誰かの助けになる。私もまた、沢山の人が払って下さった税金の恩恵を受けながら、安全で快適な生活が送れている。

先日、地域の回覧板で新潟市からの「被災された皆様へ」 「生活再建のため支援制度をご利用下さい！」というお知らせを見た。今年元旦に起きた地震で被災した方が「罹災証明」の申請をすると、その判定区分に応じて支援が受けられるというものだった。金額的には被災された方々の日常を取り戻すには到底足りないのだが、それでも、気持ちを立て直し前を向くきっかけになるのではと思った。

近年、コロナや地震、自然災害、他にも様々な脅威が次々と起こってきている。私自身はまだ消費税くらいしか払っていないが、私達の払う税金が少しずつでも誰かの助けになっているのだと思うと、改めてすごいことだと感じた。

税金が「私達の未来」を創る。「きちんと支払い」、「大切に使う」を心がけたいと思う。